

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

北山―城下北縁の寺々

仙台市博物館 学芸企画室 明石 治郎

第6回

仙台領奥州街道絵図

縦は二十四センチメートルながら、全長は五十九メートルに及ぶ「仙台領奥州街道絵図」という絵画資料があります。仙台藩領最北の相去村（岩手県北上市）から最南の越河宿（宮城県白石市）まで、南下する奥州街道の心象（イメージ）風景を、街道の東側から俯瞰的に描いたものです。十八世期前半の制作だと考えられています。

北山の六カ寺

図版はその絵図のうち、仙台城下の北の入り口であった堤町を通り過ぎたあたりで、北山丘陵を眺めた風景です。もとより心象風景ですから、具体的ではあっても写実的というわけではありません。

街道は下部中央に横たわる街並みの通町へと続くのですが、風景の主役は画面の右から左にかけて中央部から上部に並ぶ、光明寺（臨濟宗）、東昌寺（臨濟宗）、資福寺（臨濟宗）、覚範寺（臨濟宗）、輪王寺（曹洞宗）、寂光寺（真言宗）の寺々であり、それぞれ名称が書き込まれています。北から西へと並んでいるように描かれていますが、実際に

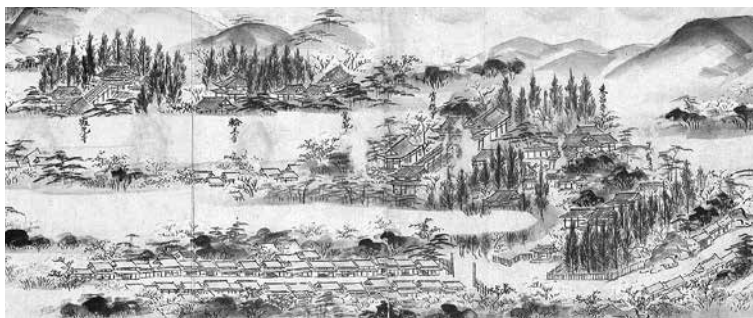
は東西の並びで城下に南面しています。さて、光明寺から輪王寺までは、いわゆる「北山五山」ですが、寂光寺はなじみのない寺です。寂光寺は北山に現存する羽黒神社の別当寺（神社に付属した寺院）でしたが、明治になり、やがて廃されています。輪王寺とは根白石街道を隔てて、すぐ隣にあります。慶長七年（一六〇二）に信夫山（福島県福島市）から神社とともに仙台城の近くに移ったとされ、寛永十五年（一六三八）までに北山へ移転しました。山号は青葉山、信夫山の別称青葉山に由来するといえます。この山号が仙台の青葉山、ひいては青葉城の呼称のもととなったといわれています。

この絵図から、北山の六カ寺は仙台城下の北縁を示す境界標識（ランドマーク）として認識されていたことがわかります。ほかに「慶応元年仙台城下図屏風」や「明治元年現状仙台城市之図」で、北山は城下北縁のランドマークとなつていますが、そこに描かれているのは輪王寺と東昌寺の二カ寺です。

北山五山

「北山五山」に関しては諸説ありますが、ここでは、江戸時代に東昌寺、光

明寺、覚範寺、資福寺、満勝寺（臨濟宗）が「仙台五山」とされていたものの、「北山五山」の称は近代になって確認されることを紹介しておきます。江戸時代に北山が描かれるとき、「北山五山」の括りは意識されなかったわけですが、現在、「北山五山」は、「北山の丘陵に建つ（由緒ある）五つの（禪）寺」の意で通っています。ただその意に限らず、かつて神社を伴う北山の寺々が城下北縁のランドマークであったことを踏まえると、それを今に知らせる北山の寺社のある景観を指して、「北山五山」で代表させることができないうものかとも思います。



「仙台領奥州街道絵図」(部分) 仙台市博物館所蔵

《予告》

企画展

戦国の伊達氏 ― 植宗から政宗へ 7月12日(金)～9月1日(日)

戦国時代の東北地方で、最終的に最大の大名となった伊達政宗。そのルーツは鎌倉時代にさかのぼります。本展覧会では、伊達氏の初祖・朝宗から歴史を説き起こし、14世植宗、15世晴宗、16世輝宗、そして17世政宗を中心に、戦国時代に躍動した伊達氏のすがたをたどります。

【観覧料】常設展料金でご覧いただけます。

一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)

※30名以上の団体は()内の料金。このほか各種割引があります。

【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)

【会期中の休館日】毎週月曜日(7/15、8/12は開館)、7/16(火)



会期中、展示替えがあります。
前期:7/12(金)～8/4(日)
後期:8/6(火)～9/1(日)

ズラリと並ぶ 歴代当主の画像

伊達家歴代画真のうち
1世 伊達朝宗像(部分) [前期展示]
仙台市博物館蔵

政宗の愛刀、鑑国行も会期を通じて展示!

太刀 無銘
(鑑国行)
伊達政宗所用
仙台市博物館蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶6月の休館日 毎週月曜日

SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP

仙台市博物館

検索